

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

読むこと部 研究主題

自立した学習者を育てる読むことの指導

第5学年国語科学習指導案

単元名 これが私の心に染みた 椋鳩十作品 ～手がかり・読み方をセルフプランニング～

学習材名「大造じいさんとがん」(東京書籍出版 5年)

日時：令和7年2月4日(火)5校時
児童：立川市立第一小学校
第5学年1組 28名
指導者：田中 静香

1 単元の目標

- 時間の経過により全体が大きく分かれている文章の構成や、各場面における大造じいさんの計略とその後の展開について理解することができる。 [知識及び技能] (1) カ
- ◎登場人物(大造じいさん)自身の行動や様子などを表す行動描写・情景描写を基に、対人物(残雪)の行動と関係付けながら大造じいさんの心情について捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1) イ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを整理して表現することができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1) オ
- 登場人物の心情について、場面の移り変わり結び付けながら、すすんで具体的に想像し、学習計画に沿って感じたことや考えたことを、文章にまとめようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 時間の経過により全体が大きく分かれている文章の構成や、各場面における大造じいさんの計略とその後の展開について理解している。 ((1) カ)	① 「読むこと」において、登場人物の行動描写や情景描写などを基に、対人物(残雪)の行動と関係付けて、登場人物の心情を捉えている。 (C (1) イ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、学習課題に対する自分の考えや自分が心に深く感じ入ったことをまとめている。 (C (1) オ)	① すすんで場面の移り変わりと結び付けながら登場人物の心情について、具体的に想像し、学習計画に沿って自分の感じたことや考えたことをまとめようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

(2) 学習材について（学習材観）

本学習材は、中心人物である大造じいさんが、自分の獵の妨げとなっているがんの頭領の残雪を、毎年様々な計略を立てて仕留めようとする様子を中心に描いた作品である。たかが鳥としか残雪のことを思っていなかった大造じいさんが、自分の計略を次々と見抜いたり、仲間のためにはやぶさと命懸けで格闘したりする残雪を、ただの鳥ではない特別な存在として認めるようになるまでの様子が、豊かな描写で描かれている。

本学習材には、中心人物である大造じいさんの行動や様子などを表す描写の他に、大造じいさんの心情の移り変わりを捉える優れた叙述が、作品の様々なところに散りばめられている。以下の叙述を関係付けながら作品を読むことで、大造じいさんの心情を児童が自身の力で多角的に想像できると考えた。

- ・ 色彩や風景が豊かに描かれた情景描写
- ・ 時間の経過が分かりやすく想像できる大造じいさんの考えた計略
- ・ 仲間のために命懸けで戦う残雪の臨場感あふれる様子など

本単元では、前述の特性を踏まえ、一か所の叙述に限定して表面的な大造じいさんの心情を想像するのではなく、様々な視点で描かれた叙述を複合的に捉えさせ、心情（残雪に対する大造じいさん自身が抱く関係性を含む）を豊かに想像できるようにしていく。

(3) 単元について（単元観）

高学年になると、自分が興味・関心を抱くものがより明らかになり、読書生活にも個人差となって現れる。単純な読書量だけでなく、選書好みも児童によって様々であり、教師側からの働きかけがないと自分の好む本ばかりを読む傾向が見られる。しかし、5年生になってからの10か月間、国語科の学習で、様々な文学的文章と出会い、学習材に適した読み方や関連する作品を比較しながら読むことに「読むことの楽しさ」を感じられるようになり始め、選書の幅が広がりつつある。

そこで、単元名を「これが私の心に染みた椋 鳩十作品 ～手がかり・読み方をセルフプランニング～」とした。既習経験を生かして作品を読み深めるための手がかりとする叙述や読み方を自分で選択しながら作品と対話し、「心に深く感じ入りながら読む」ことも、読むことの楽しさの一つであることに気付いてほしいと願い、本単元を設定した。作品に応じて、既習の手がかりや読み方を自分で選択し、主体的に文学的文章の学習や日々の読書活動に取り組むことが、読むこと部の研究主題「自立した学習者の育成」にもつながると考えた。

第一次では、導入時に本単元に入る直前に学んだ「枕草子」を振り返り、およそ1000年のときを超え当時の清少納言が感じたことを、「言葉」を媒介として現代の私たちが共有できることの価値や楽しさについて押さえる。そして、本学習材が、百年余り前に生まれた椋鳩十が様々な自然界の生物に関する取材を通して、感じたことを基に制作した作品であることを伝え、「読み手である自分たちは、椋鳩十さんが当時の思いを言葉に込めて紡いだ作品から、どのようなことを感じ取るのだろうか。」という意識をもって学習材と出会うようにした。そして、初めて読んで印象に残った（心に染みた）ところを交流する中で、印象に残るところが人によって異なることを押さえ、「なぜ、その部分が心に残るのかを、自分の言葉で表現したい。」という思いを、児童自身もてるようにした。自分が作品を読んで感じた思いを自分の言葉で表現できるようにするために、学習材について詳しく読み、皆と話し合いたいことを学習課題として、児童自身が設定するようにした。なお、第一次において、今までの国語科（文学的文章）の学習を振り返り、どのような叙述を手がかりにして読み方を工夫してきたのかを振り返り、第二次の学習に生かせるようにした。

第二次では、学習材「大造じいさんとがん」を読んで心に染みたところを友達と交流するために、学習計画（手がかりとする叙述と読み方）を児童自ら立て、自分で読み進めながら学習課題に対する考えがもてるようにした。学習計画を立てる前に既習の学習経験を振り返り、今までの学習で使用した「手がかりとする叙述や読み方」の確認と整理をする場を設定し、児童が主体的に学習計画を立てられるようにした。また、読んで分かったことを整理する際には、心情曲線や図、表などのまとめ方（本単元では、学習シートと呼ぶ）の中から、自分の読み方に適したものを選択して取り組む。その後、同じ学習課題の友達や学級全体で、考えを共有する時間を設定した。考えの共有を通して、計略を次々と見破る残雪の賢さや、命懸けでハヤブサから仲間を守る残雪の様子などに大造じいさんが強く胸を打たれたことや、「たかが鳥」だと思っていた残雪を最後は「英雄」として認める大造じいさんの心情の変容などが、どの学習課題にも大きく関係していることを、多角的に捉えられるようにした。第二次の最後に、学習を通して自分が心に染みたところについて、友達と交流する時間を設定した。第一次の段階では、「何となく印象に残る」程度の捉えだった児童も、学習課題に関する読みを通して、「なぜこの部分が、自分の心には染みたのか」自分の考えを明確にもって交流することをねらった。このことで、作品の様々な捉え方や読み方について認識を深めるとともに、自分の考えを深めることにもつなげることができると考えた。

第三次では、まず、第二次の学習で使用した「手がかり（とする叙述）と読み方」を振り返り、自分が選んだ椋鳩十作品を読む際にも汎用的に生かしていくことを確認する。自分が心に染みた作品を友達に紹介するために、作品に適すると思う「手がかりと読み方」を選んで計画を立て、自分の心に染みた作品を読み、自分の選んだ形式でまとめる。単元の最後に、友達と心に染みた作品とその理由について紹介し、語り合うことで、読書の楽しさを改めて実感し、日々の読書生活をより豊かなものにしていきたい。

※第三次で扱う椋鳩十作品について

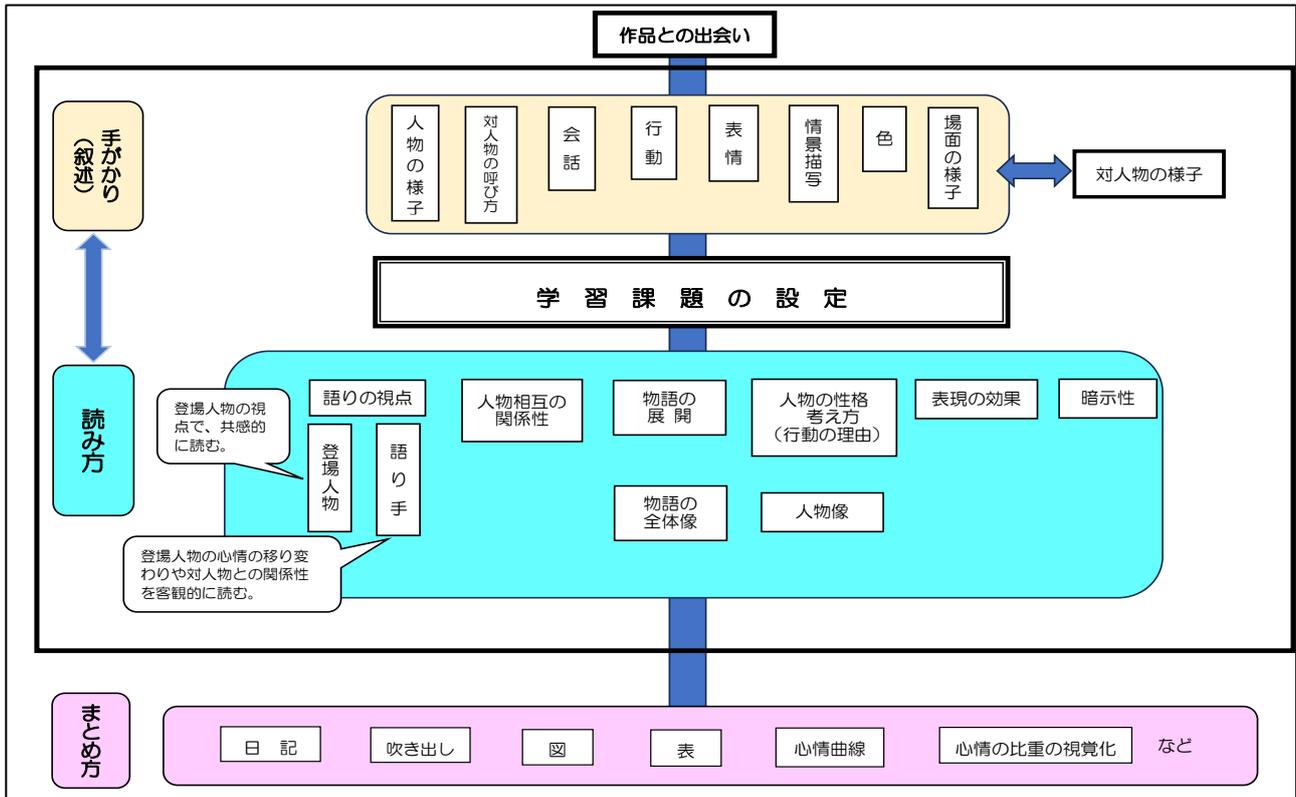
本単元では、児童が作品を読んで「心に染みた」（心に深く感じ入った）作品について、自分が読んで分かったことや感じたことを基に、友達に紹介する活動を単元のゴールに設定した。そのため、1冊ではなく複数冊の椋作品を読んだ上で、第三次の学習に入る前に選書ができるように、本単元は第二次と第三次に時間的ゆとりをもたせて学習計画を立てた。興味をもった児童がいつでも椋作品を手にとることができるように、第一次の時点で、教室に椋鳩十作品を用意し、児童が図書の時間や朝読書などの時間を活用して、作品に親しむことができるようにした。

選書については、椋鳩十作品を以下の観点で読み、本単元の指導事項に適するであろうと思われる作品を選んだ。（詳細は、資料12、13ページ）

【選書の観点】

- ・児童が作品を読んで、心に深く感じ入ると予想できること。
- ・単なる自然界の動物の感動的な物語を、客観的に登場人物や第三者が語るのではなく、中心となる登場人物の心情が、(野生)動物の行動や振る舞いなどと関係して描かれていること。(登場人物と動物の関係性について描かれていること)
- ・第二次で学習したことが活用できるように、登場人物の心情や会話、様子、表情、情景描写などのうちのいくつかが描かれていること。

【本単元における読みのイメージ】



4 多摩地区研究会 読むこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

文学的な文章において「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、学習課題に即して、どのような叙述「手がかかり」に着目し、その叙述を基にどのように読んでいけばよいか「読み方」を考え、学習課題に対して思考していくことであると多摩地区研究会読むこと部では捉えた。

具体的な手がかかりと読み方は、以下の通りである。

- 手がかかり・・・会話や地の文における人物の行動や心情描写、場面の様子、情景描写 など
- 読み方・・・視点(登場人物・語り手)を決めて読む、人物の性格や考え方を捉える、人物像や表現の効果を考える など

手がかかりを複合的に用いて物語を捉え、児童自らが読み方を選び、考えながら読みすすめる中で、言葉への自覚を高めることが、「言葉による見方・考え方を働かせること」であると考えた。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が(本単元において)身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

α 学習計画作成に向けた3つの柱の提示

児童が主体的な学習者として、自ら学習課題を設定して学習が進められるように、第一次で学習計画を立てる時間を設けた。その際、児童が関心をもった事柄を重点として読み進め、読み方を自分で選択できるように学習経験を想起しながら3つの柱(手がかかり・読み方・まとめ方)を整理した。児童が学習課題を解決するために、既習の学習経験を基に、どの叙述に着目し、人物の考え方、物語の展開、視点(登場人物の視点か語り手の視点)等で読み、読み取ったことをどのようにまとめていくかを選択できるように

した。その際、既習事項をいつでも確かめられるように教室に提示したり、手引きとして手元に準備したりして、学習環境を整えた。3つの柱（手がかり・読み方・まとめ方）を活用できるようにすることで、児童が身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組むことができると考えた。

【手がかり】 着目する叙述

(例) 人物の様子、会話、行動、表情、場面の様子、情景描写、場面設定等

【読み方】 学習課題に即してどのように読んでいけばよいか考えること

(例) 人物・語り手の視点、人物相互の関係性、物語の展開、物語の全体像、人物像、人物の性格・考え方、表現の効果、暗示性

【まとめ方】 学習課題に対して読み取ったことをまとめること

(例) 日記 吹き出し 図 表 心情曲線 心情の比重の視覚化等

b 既習内容を生かした第三次の活動

第三次では、第二次で身に付けた読み方を生かして、他の椋鳩十作品を読む。児童は『大造じいさんとがん』で習得した読みを活用し、椋鳩十作品を自分で読み進める。自分で読み進める前に、『大造じいさんとがん』で学んだ手がかり・読み方を振り返る。自分の心に染みた作品を紹介するために、その作品に適すると考えた手がかり・読み方を選択する。このようにすることで、第二次の学習を活用して自分が選んだ椋鳩十作品を、自分の力で主体的に読むことができると考えた。

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。
(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

a 交流活動の工夫

本単元では、自ら設定した学習課題を解決するために、手がかり・読み方・まとめ方を自分で選択して学習計画を立て、学習材を読んでいく。学習の途中に学習課題が同じ友達や同じ読み方を選択している友達と交流することで、自分の読みを振り返り、手がかりとする叙述や心情のまとめ方等、加筆修正をして児童自ら自分の読みを調整する時間を設定する。また、異なる学習課題や読み方で作品を読んだ友達とも交流する機会を設けることで、それぞれの読みの良さに気づき、多角的に作品を捉えられると考えた。

b 学習成果の価値付けを行う

個別学習中に、ねらいに即した価値のある児童の学習の過程（ノート・成果物）を選定し、全体交流の場で教師が意図的に指名する。学級全体で内容を整理分析し、教師が価値付けを行うことで、本時の指導のねらいの具現化した内容を確認でき、全体交流後に加筆修正する時間をとることで、自らの考えを確かにし、広げることができると考えた。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

「大造じいさんとがん」で獲得した力を発揮できるように、椋鳩十作品の中から登場人物が（主に）野生の動物と対峙し、人物の心情がその動物の行動や振る舞い等と関係して描かれている作品を予め選定した。また、第三次では、同じ作品を選んだ友達、そして異なる作品を選んだ友達と交流することで、自分が選んだ作品以外の他の作品にも興味をもち、読書生活の充実につなげていくことができると考えた。

6 単元計画（本時6／全7時間）

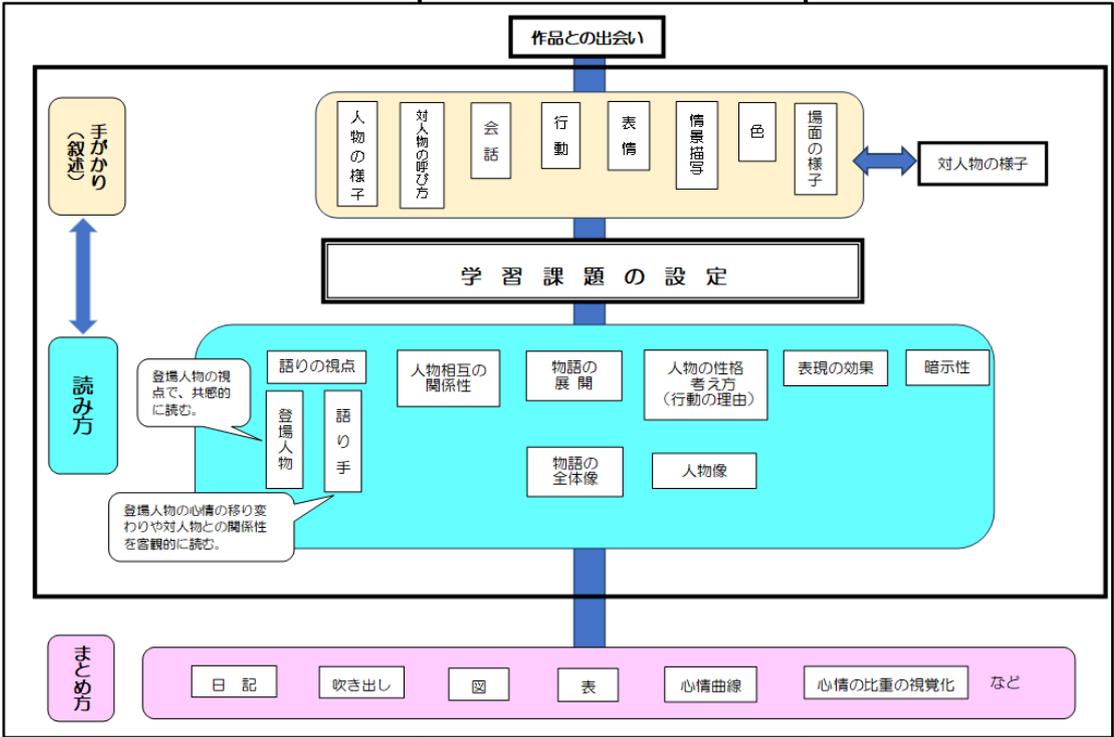
次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一次	1	<p>1 今までの読書経験や、5年生になって学習したことを思い出す。</p> <p>本単元に入る直前に学んだ「枕草子」では、およそ1000年のときを超え清少納言が感じたことを、「言葉」を媒介として共有したことを思い出す。「大造じいさんとがん」は、百年以上前に生まれた椋鳩十が自然界の様々な動物の取材を通して感じたことを基に制作した作品であると知り、読み手としてどのようなことを感じ取ることができるのかという意識をもつ。</p> <p>2 「大造じいさんとがん」を読み、感想をもつ。（タブレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印象に残ったこと。 ・作品の特徴 <p>（心情を表す言動の描写が豊富、ところどころに情景描写がある、作品の内容が後半大きく展開するなど）</p> <p>3 感想を交流し、学習の見通しをつかむ。</p>	<p>○自分の読書傾向や、物語を通して心に深く感じ入る経験の有無などを振り返る。</p> <p>○手がかりとした叙述、できるようになったこと（既習事項）などを確認し、さらに伸ばしたい力を自覚できるようにする。</p> <p>○本単元が5年生として最後の物語文の学習になるため、これまでの学習を生かして自ら学習を進めることを確認し、作品の特性を意識して学習材を読むように促す。</p> <p>○児童から出された感想を、「手がかり」や「読み方」に着目して分類・整理する。</p>	
	2	<p>1 作品を読み、全体のおよその構造を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんの仕事 ・がんの群れにおける残雪の存在 ・大造じいさんが、わなを仕掛けた回数（年数） <p>2 学習材についてみんなで話し合いたいことを、学級全体で整理し、学習課題を考える。（タブレット）</p> <p>（予想される学習課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして、大造じいさんは、残雪がはやぶさと戦っているときに、銃を下ろしてしまったのか。 ・どうして、ずっとやっつけたいと思っていた残雪を、元気になったら自然に戻ってしまったのか。 ・大造じいさんと残雪の関係性は、どのように変化していったのか。 	<p>○中心人物は大造じいさんであり、残雪の感情については触れられていないことを押さえる。</p> <p>○大造じいさんの仕事である狩人について押さえ、大造じいさんとがん（残雪を含む）の関係性を確かめる。</p> <p>○学習経験を思い出し、学習材を読み進める中で、叙述を根拠に自分の考えがもてそうなものを学習課題として設定することを確かめる。</p> <p>○中心人物は大造じいさんであることを意識して学習課題を考えるよう、必要に応じて個別に声を掛ける。</p>	<p>[知識・技能①] 発言・タブレット</p> <p>年の経過により全体が大きく分かれている文章の構成や、各場面における大造じいさんの計略とその後の展開について理解しているかの確認。</p>
		<p>3 前時で考えた単元の見通しを参考にしながら、学級全体で学習計画を立てる。</p>	<p>○今までの学習経験を思い出しながら、学習計画が立てられるように声を掛ける。</p>	

これが私の心に染みた椋鳩十作品
～手がかり・読み方をセルフプランニング～

指導者が単元の指導事項と照らし合わせて選書した椋鳩十作品を教室に複数冊用意し、児童が自由に手に取って読むことができる環境を整える。

4 第一次の学習を振り返り、第二次の見通しをもつ。(タブレット)

○第二次の学習につながるよう、既習内容について振り返るように促す。



第二次

3 習得

1 自分で学習計画を考え、その計画を基に、学習課題の解決に向けて作品を読んで、大造じいさんの心情を捉える。
(学習シート：まとめ方 → 児童が自分で工夫してまとめることができるもの)

4 活用

【個の学びの例】
・教科書を何度も読む。
・手がかりとなる叙述を見つけたら、その都度、印を付ける。(下線、丸囲みなど)
・手がかりとなる叙述を関連付けながら、大造じいさんの心情を想像する。
・学習課題と関係付けながら、大造じいさんの心情を、自分が選択したまとめ方で整理する。

○「大造じいさんとがん」を読んで、心に染みたとところを自分の言葉で説明できるようにするために、学習課題に対する自分の考えをもつことを、確認する。

○大造じいさんの心情をまとめる際に、既習の学習で児童が取り組んだ成果物(学習シート)を参考にすることができるよう、教室環境を整える。

○必要に応じて友達と交流する場を設定し、自分の読みを振り返り、手がかりとする叙述や心情のまとめ方など、加除修正して、自分の読みを調整するよう促す。

○学習の過程(学習シート)を、掲示板アプリに投稿し、必要に応じて児童相互が参考にできるように環境を整える。

〔主体的に学習に取り組む態度①〕
発言・学習シート
(ノート)
すすんで場面の移り変わりと結び付けながら登場人物の心情について、具体的に想像し、学習計画に沿って自分の考えをまとめようとしている。

〔思考・判断・表現①〕
発言・学習シート
(ノート)
「読むこと」において登場人物の行動描写や情景描写などを基に、残雪の行動と関係付けて、登場人物の心情を捉えているかの確認。

	<p>【予想される児童の学習活動例】</p> <pre> graph TD A["A どのように、大造じいさんは残雪を銃で撃たなかったのか。"] --> A1["⊕ 行動 会話 様子 残雪への言葉かけ"] A1 --> A2["⊖大造じいさんの視点"] A1 --> A3["⊖物語の展開"] A2 --> A4["日記"] A3 --> A5["吹き出し"] B["B どのように、春になったら、残雪を自然に戻したのか。"] --> B1["⊕ 行動 会話 様子 情景描写"] B1 --> B2["⊖人物の性格・考え方（行動の理由）"] B2 --> B3["心情曲線"] B2 --> B4["図"] B3 --> B5["心情の比重の数値化"] C["C 大造じいさんと残雪の関係はどのように変化したのか。"] --> C1["⊕ 行動 会話 情景描写 残雪の様子"] C1 --> C2["⊖人物相互の関係性の変化（時間経過）"] C2 --> C3["表"] </pre>		
	<p>2 自分が整理した大造じいさんの心情や作品全体を通して分かったこと基に、第一次で立てた学習課題に対する自分の考えをもち、書き表す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【個の学びの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が読んで分かったことを整理した成果物や、叙述を読み直し、大造じいさんと残雪の関係性や残雪に対する大造じいさんの心情の移り変わりを確かめる。 叙述を関係付けて想像した大造じいさんの心情を基に、自分の考えを書く。 </div> <p>3 学習を振り返り、心情を想像したり学習課題に対して自分の考えをもちたりする上で、効果的だった手がかりや読み方を確認する。</p>	<p>○自身がまとめた成果物や叙述を参考にしたり、大造じいさんの残雪に対する心情の移り変わりを関係付けたりして、考えるように促す。</p> <p>○学習課題に対する自分の考えがもてるようになるために、役立ったと思うことを思い出すよう声を掛ける。</p>	
5	<p>1 前時にまとめた、学習課題に対する自分の考えを交流し、自分の考えをより確かなものにする。 少人数→全体→自分（加筆）</p> <p>2 今までの学習を通して分かったことを基に、「大造じいさんとがん」の中で、心に染みた(深</p>	<p>○学習課題ごとに交流を図り整理した考えを、全体でさらに共有し、作品全体を通した大造じいさんの心情の移り変わりや残雪の様子や行動との関連性について気付けるように板書を整理する。</p> <p>○異なる読み方で作品を読んだ児童とも交流するように促し、それぞれの読みのよさに気付き、多角的に作品を捉えられるようにする。</p> <p>○友達が、どの叙述からどのように想像を広げて、作品のよさを感じたのか、気を付けて</p>	

		<p>く感じ入った)ところについて、自分の考えをまとめ、友達と紹介し合う。</p> <p>3 学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>交流するよう声を掛ける。</p> <p>○自分の読みの力を自覚するとともに、第三次でどのように身に付けた力を発揮して、学習に取り組むか、考えるよう促す。</p>	<p>〔思考・判断・表現②〕 発言・学習シート〕 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分が深く心に感じ入ったことを、まとめているかの確認。</p>
		<p>第三次が始まるまでに、自分の心に染みた(深く感じ入った)作品を読んで見つけられるように、第二次の終わりから第三次が始まるまで、数日空けて読書の機会を確保する。(図書館の時間、朝読書など)</p> <p>第三次で学習する作品を決めたら、内容を忘れないように、気付いたことや感じたことを付箋に書いて本にメモを残しておくといよいことを伝える。</p>		
第三次	6 (本時)	<p>1 身に付けた「人物の心情を捉える力」を発揮して、自分が選んだ椋鳩十作品を読み、深く心に感じたところを中心にまとめる。</p>	<p>○第二次で学習した「手がかり」や「読み方」を板書で提示し、他の椋鳩十作品でも生かして読むことを確認する。</p> <p>○自分が心に深く感じ入った(心に染みた)ところを整理して読むために、作品の特徴と照らし合わせて、「手がかり」「読み方」を考えて計画を立てるように声を掛ける。</p>	<p>〔思考・判断・表現①〕 発言・学習シート〕 「読むこと」において登場人物の行動描写や情景描写などを基に、残雪の行動と関係付けて、登場人物の心情を捉えているかの確認。</p>
	第二次の活用 7	<p>【学習の進め方】</p> <p>① 二次で学んだ「手がかり」と、「読み方」を全体で確認する。</p> <p>② 第二次の学習を生かして、自分が選んだ作品の中で、心に深く感じ入った(心に染みた)ところを伝えるように、読みの計画を立てる。 →同じ作品を選んだ友達を中心に、計画内容を確認する。</p> <p>③ 手がかりとなる叙述に付けた付箋箇所を読み直す。</p> <p>④ 手がかりを基に、心に染みた(深く感じ入った)ところが伝わるように、図などに整理する。</p> <p>2 自分の心に染みた椋鳩十作品について交流することを通し、作品に対する友達の解釈を聞き、考えを広げる。</p> <p>3 単元の学習を振り返り、今後の読書生活について見通しをもつ。</p>	<p>○まとめた成果物は、掲示板アプリに投稿するよう声を掛け、単元終了後も、友達との多様な交流の場として活用する。</p> <p>○同じ作品や異なる作品を選んだ友達と交流することを通して、多様な解釈があることに気付き、多角的に作品を読むことの楽しさを感じることができるようにする。</p> <p>○本単元で獲得した読む力を、今後の読書生活や国語科の学習で、どのように生かしていくのか、考えるよう促す。</p>	

7 本時の学習（本時6／全7時間）

(1) 本時のねらい

第二次の学習を生かし、友達に伝えたい思いを表現するために、「読み方」と「手がかり」を自分で選択し、登場人物の言動や情景描写などの叙述を関連付けて読み、心情を具体的に想像することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法												
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習のめあてを確かめる。</p>	<p>○第三次の見通しがもてるよう、前時までの学習過程について、手がかり・読み方を意識して教室に掲示しておく。</p>	<p>椋鳩十作品は、教材研究を基に担任が選書したものを、本単元に入る前から教室に用意しておく。 (詳細はP11, 12)</p>												
<p>自分が選んだ椋作品の「心に染みた」ところを確かめながら、 手がかり・読み方をセルフプランニングして読もう。</p>														
<p>2 第二次で学習した「手がかり」「読み方」を思い出し、自分が選んだ作品の中で、心に染みた（深く感じ入った）ところが伝わるように、読みの計画を立てる。</p>	<p>○第二次の学習を想起し、自分が感じた「心に染みたポイント」を伝えるために、効果的だと思う「読み方」をまず考えるように促す。</p> <p>○「まとめ方」は、時間が限られているため、簡易的なまとめでよいことを伝える。</p> <p>○選んだ作品の特性と、心に染みたポイントが伝わりやすい「読み方」であるかを考えて計画するように声を掛ける。</p>													
<p>【3次までに児童が選ぶ本の候補】</p> <table border="0"> <tr> <td>月の輪グマ</td> <td>丘の野犬</td> </tr> <tr> <td>金色の足あと</td> <td>片耳の大シカ</td> </tr> <tr> <td>熊野犬</td> <td>山のえらぶつ</td> </tr> </table>	月の輪グマ	丘の野犬	金色の足あと	片耳の大シカ	熊野犬	山のえらぶつ								
月の輪グマ	丘の野犬													
金色の足あと	片耳の大シカ													
熊野犬	山のえらぶつ													
<p>【予想される児童の計画】</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>児童の感想</p> <p>せっかくアカと心が通い合って喜んでたのに、最後はアカのために離れるのが、とても悲しい。</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>最初は、ただの野獣としか思っていなかったキツネの親子の絆に、心が動いた正太郎が、親子の命を必死に守るのが、感動的だった。</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>ただのシカとしか思っていなかった、猟犬と戦う「がけくずれ」を、専法にも銃で撃ったことを後悔する老狩人の気持ちが、暗く心に残った。</p> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>手がかり</p> <p>人物の表情・様子</p> <p>会話（言ったこと）</p> <p>対人物（野犬）の様子</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>行動</p> <p>会話（言ったこと）</p> <p>対人物（野犬）の様子</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>行動</p> <p>情景描写</p> <p>対人物（がけくずれ）の様子</p> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>読み方</p> <p>人物同士の関係性</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>物語の展開</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>暗示性（題名）</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <p>【まとめ方】</p> <p>紹介文 心情曲線 図 表 など</p> </td> </tr> </table>			<p>児童の感想</p> <p>せっかくアカと心が通い合って喜んでたのに、最後はアカのために離れるのが、とても悲しい。</p>	<p>最初は、ただの野獣としか思っていなかったキツネの親子の絆に、心が動いた正太郎が、親子の命を必死に守るのが、感動的だった。</p>	<p>ただのシカとしか思っていなかった、猟犬と戦う「がけくずれ」を、専法にも銃で撃ったことを後悔する老狩人の気持ちが、暗く心に残った。</p>	<p>手がかり</p> <p>人物の表情・様子</p> <p>会話（言ったこと）</p> <p>対人物（野犬）の様子</p>	<p>行動</p> <p>会話（言ったこと）</p> <p>対人物（野犬）の様子</p>	<p>行動</p> <p>情景描写</p> <p>対人物（がけくずれ）の様子</p>	<p>読み方</p> <p>人物同士の関係性</p>	<p>物語の展開</p>	<p>暗示性（題名）</p>	<p>【まとめ方】</p> <p>紹介文 心情曲線 図 表 など</p>		
<p>児童の感想</p> <p>せっかくアカと心が通い合って喜んでたのに、最後はアカのために離れるのが、とても悲しい。</p>	<p>最初は、ただの野獣としか思っていなかったキツネの親子の絆に、心が動いた正太郎が、親子の命を必死に守るのが、感動的だった。</p>	<p>ただのシカとしか思っていなかった、猟犬と戦う「がけくずれ」を、専法にも銃で撃ったことを後悔する老狩人の気持ちが、暗く心に残った。</p>												
<p>手がかり</p> <p>人物の表情・様子</p> <p>会話（言ったこと）</p> <p>対人物（野犬）の様子</p>	<p>行動</p> <p>会話（言ったこと）</p> <p>対人物（野犬）の様子</p>	<p>行動</p> <p>情景描写</p> <p>対人物（がけくずれ）の様子</p>												
<p>読み方</p> <p>人物同士の関係性</p>	<p>物語の展開</p>	<p>暗示性（題名）</p>												
<p>【まとめ方】</p> <p>紹介文 心情曲線 図 表 など</p>														
<p>3 計画が立てられたら、同じ作品を選んだ友達を中心に、計画を確認し合う。（ペア・少人数）</p>	<p>○なぜ、その「手がかり」「読み方」を自分が選んだのか、理由も添えて、友達に説明するよう声を掛ける。</p>													

<p>4 学習計画に沿って、椋鳩十作品を読み、心に深く感じたことについて、叙述を根拠とし、簡略化してまとめる。 (学習シート：無地)</p> <p>5 学習が進んでいる友達の学習成果を学級全体で確認し、自分の学習の参考にする。次時の見通しをもつ。 (学級全体)</p>	<p>○揭示物（心情を具体的に想像する際の手がかりとした大造じいさんの叙述）を活用し、叙述を関係付けて、人物の心情（心情変化含む）や人物相互の関係性を考えるように助言する。</p> <p>○必要に応じて友達と交流したり、第二次でまとめた友達や自分の成果物をタブレットで確かめたりし、学習の参考としてもよいことを伝える。</p> <p>○自分が選んだ作品の特性や適した「手がかり」や「読み方」取り入れて読んでいる児童を意図的に紹介し、児童が自分の学習を振り返ったり、次時の見通しをもったりすることが、できるようにする。</p>	<p>〔思考・判断・表現①〕 発言・学習シート又はノート 「読むこと」において登場人物の行動描写や情景描写などを基に、対人物（動物）の行動と関係付けて、登場人物の心情を捉えているかの確認。</p> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕 ・人物の行動や心情の描写、つぶやきや会話などの叙述や対人物の様子を表現する叙述を関連付けて読み、その関係性や人物の心情の移り変わりを捉えている。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

8 資料

(1) 本時の板書計画

これが私の心に染みだした 椋鳩十作品
↳ 手がかり・読み方をセルフフランニング

自分が選んだ椋鳩十作品の心に染みだしたところを確かめながら、手がかり・読み方をセルフフランニングして読もう。

選んだ作品と読み方を、二元の表に整理し、自分が選択した部分に、ネームプレートを貼る。

【手がかり】

- ・ 行動
- ・ 会話
- ・ 人物の様子
- ・ 人物の表情
- ・ 感情を表す表現
- ・ 対人物の呼び方
- ・ 対人物の様子
- ・ 場面の様子
- ・ 情景描写

【読み方】

- ・ 人物の考え方
- ・ 人物像
- ・ 人物の行動の理由
- ・ 対人物の様子
- ・ 人物相互の関係性の変化
- ・ 物語の展開
- ・ 物語の全体像
- ・ 語り視点 (登場人物、第三者)
- ・ 表現の効果
- ・ 暗示性 (メッセージ性)

《みんなが見つけた 読むときのこつ》※第二次でまとめた内容

- 読み方に関係する手がかりを厳選。
- 一つの手がかりを、いくつも関係付けて読む。
- 複数の手がかりを関係付けて読む。

※第三次で児童が学習材として扱う椋鳩十作品は、第三次の学習開始前に一人一冊決めておくことができるように、本単元の学習が始まったときから教室に準備しておく。

※学習計画は教室に掲示しておき、いつでも単元全体の見通しをもって学習を進められるようにする。

(2) 第三次で扱う椋鳩十作品に関する資料

出典:椋鳩十名作選(理論社)

【選定の観点】

- ・児童が作品を読んで、心に深く感じ入ると予想できること。
- ・単なる自然界の動物の飼育日記的な作品を、客観的に登場人物や第三者が語るのではなく、中心となる登場人物の心情が、(野生の)動物の行動や振る舞いなどと関係して描かれていること。
(人物と野生動物の関係性について描かれていること)
- ・第二次で学習したことが活用できるように、登場人物の心情や会話、様子、表情、情景描写などが描かれていること。

作品名 (作品の舞台)	○登場人物 ●対人物	関係性の変容	心情を表す 人物の描写	情景描写
月の輪グマ (長野県:遠山川上流) (椋鳩十名作選②)	○私 (イワナ釣りに来た) ●熊の親子(特に母) 語りの視点:私	子熊を生けどってみたい。命がけの冒険がますますしてみたい。 →見守り、心配する。 ※子熊を救うため、決死の覚悟で30m下の滝壺に飛び込んだ母熊の姿を見て、変化。	興味本位で子熊を生け捕ろうとしていたが、母熊の決死の姿を見て、涙がこぼれそうになるほど、心を打たれる人物の心情が描かれている。	前半部に、私が子熊を生けどろうという心情について、山の澄んだ様子を通して、豊かに描写。
金色の足あと (雪深い地域) (椋鳩十名作選③)	○正太郎 (子ども) ●正太郎の家に捕まった子ぎつねの両親 語りの視点:第三者	「このやろう」 (親ぎつねに肩を噛まれた際) →「お父さん、撃ってはいけない。」 じじと、まぶたの奥があつくなった。 (吹雪の夜、谷底に落ちた際、ぎつねの両親に暖めてもらった際)	人間に捕らえられた子ぎつねを、なりふり構わず必死に救おうとする親ぎつねの行動に、心を打たれている正太郎の様子が、詳細に描かれている。	正太郎の心情を表すような情景描写はあまり描かれていないが、「金色の足あと」は、作品を象徴するキーワードとして描かれている。
熊野犬 (不明) ※「マヤの一生」の原形となった作品 (椋鳩十名作選④)	○わたし (妻と子供二人) ●マヤ (熊野犬:わたしの飼い犬) 語りの視点:わたし ※マヤがわたしを慕っている様子が詳細に描かれている。	たまらなくかわいらしい →ずるい、偽善者 →犬というのは、人間のような細かい心の動きを見せるものだなあ。(と、舌を巻いた) ※一瞬、マヤに対して負の感情を抱くが、基本的に常に大切に思っている。	子犬から可愛がってきたマヤを、戦時下の食料難で、軍に泣く泣く引き渡すまでの「わたし」の心情が、数か所に描かれている。 妻が「家の者の一人だから」と、わずかなさつまいもを一人分マヤに渡す部分は、マヤの存在を象徴している。	情景に関する描写はない。後半、マヤを軍に引き渡すまでの葛藤が表す心情描写は多くはないが、家族との会話などから、読み手が想像を膨らませることができる。 最後、マヤが死に場所を求め命からがらが逃げ戻り、息絶える場面で終わり、何ともいえない読後感となっている。

作品名 (作品の舞台)	○登場人物 ●対人物	関係性の変容	心情を表す 人物の描写	情景描写
丘の野犬 (鹿児島県：コシキ島) (椋鳩十名作選④)	○松吉 (畑で一人働く) ●アカ (野犬) 語りの視点：第三者 ※アカが松吉を慕っている様子が詳細に描かれている。	気味が悪い →友達のように 「アカは、決してそんな悪いことをするはずはない。」 ※野犬なのに、自分に心を開いくアカの姿を見て、変化。	松吉が、野犬のアカと親しくなりたい様子や、友達のように大切に思う心情が、詳しく描かれている。 野犬狩りて、アカと悲しい別れ方をするまでの松吉の心情が豊かに描かれている。	情景描写は、3か所ほどしかないが、どの描写も松吉の心の大きな揺れ動きを象徴するような描写になっている。
片耳の大シカ (屋久島) (椋鳩十名作選⑤)	○吉助おじさん (シカ狩りの名人) ●片耳の大シカ (シカの大將) 語り手の視点：ぼく	片耳の野郎、何とかやっつけたい →今日は命を助けられた(ぼくのこの言葉にうなずいた) ※嵐で命の危険にさらされていた中、シカたちに助けられたことで、少し変化。	片耳の大シカを捕まえたいと焦る吉助の思いが、何か所かに描かれている。 ※嵐で寒さに耐えるぼくや吉助おじさんの様子が、詳しく表れている。	嵐の山の様子が詳細に描写されている。(心情と直接結びつかないところが多い)
山のえらぶつ (南アルプスの麓：遠山郡) (椋鳩十名作選⑤)	○房吉老人 (老狩人) 備考：猟犬2匹 クロと残雪 ●がけくずれ (大シカ) 語りの視点：わたし	「おれさまに見つけられては、運のつきだ」 →「へっぼこなつまらんやつ」と、自分のことを言うほど、後味の悪い思いをした。	猟犬のクロと残雪に大シカを追わせて、数日間余裕を見せている様子や、数日たち不安になって探し回る様子などが分かりやすく表現されている。 多くはないが、自分が姑息に銃で仕留めたことを後悔している叙述が見られる。	猟犬のクロと残雪が、大シカ夫婦を追っている際の山の様子が描かれている。 房吉老人が、クロと何日もがけで格闘していたがけくずれを銃で仕留め、がけくずれが谷底に落ちて行く様子が詳細に描かれている。(特に、後を追った妻のシカが落ちる様子は神々しく描かれている。)

(3) 令和6年度 第5学年 国語科年間指導計画 (読むこと：文学的文章)

学習材 (○囲み数→時数)	○重点指導事項	学びの蓄積 ☆読みの手がかり □読み方 ◆まとめ方	読書等との関連
おにぎり石の伝説⑤	○登場人物の心情を、描写を基に捉えること。 C(1)イ	☆行動 会話 心情描写 □時間の変化(心情の比較) ◆心情曲線(ノート) ◆表(ノート)	・自分で選んだ物語を、描写を基に心情を工夫して読む。
世界でいちばんやかましい音⑤	○物語の全体像を具体的に想像すること。 C(1)エ	☆行動 会話 場面の様子 心情描写 □物語の全体像 □人物の性格・考え方(山場の人物の行動理由) ◆表(ノート)	・自分で選んだ物語を、人物の性格・考え方や場面の展開に着目して読み、全体像を捉える。
注文の多い料理店⑥	○人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 C(1)エ	☆場面の様子(情景) 行動 会話 心情描写 □読む視点：語り・登場人物 □表現の効果 人物像 □暗示性(作品名との関連) ◆表(ノート) 図・自由(白紙プリント)	宮沢賢治作品 ・作品を読み、人物像や情景描写などの表現の効果を考える。(読書) ・注文の多い料理店で学んだ人物像や作品の展開を生かし、自分で物語を書く。(自主学習)
手塚治虫⑤	○人物像を具体的に想像すること。 C(1)エ ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 C(1)オ	☆行動 会話 心情描写 □人物像 □人物の性格・考え方(山場の人物の行動理由) □自分と人物の比較 □読む視点：語り・登場人物 ◆レーダーチャート(白紙プリント) ◆図・自由(白紙プリント)	様々な人物の伝記 ・人物像や人物の生き方を読み、自分の生き方のヒントを見つける。 (読書)
大造じいさんとがん⑦	○主な登場人物から見た対人物との関係や登場人物の心情を、描写を基に捉えること。 C(1)イ ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 C(1)オ	☆行動 会話 心情描写 情景描写 対人物の様子 □時間の変化(心情の比較) □人物の性格・考え方(山場の人物の行動理由) ◆表(ノート・白紙プリント) ◆図・心情曲線(白紙プリント)	椋鳩十作品 ・人物と対人物(動物)との関係や人物の心情を、描写を基に捉え、自分の心に響いた作品を紹介する。 (国語科・読書)

※重点指導事項について

東京書籍版第5学年の国語科年間指導計画には、元々、文学的文章の共有(カ)にあたる部分の指導は予定されていないため(説明的文章の学習のみで指導予定)、教科書に準じて年間計画を作成・指導した。

(4) 大造じいさんとがん 教材分析

	大造じいさんの 作戦	とき	大造じいさんの行動 ● 心情・様子 (◇)	大造じいさんの 言ったこと	残雪の行動・様子	地の文 (残雪・かもの様子など)	情景描写
一	<p>(残雪がやってきたと知ると、今年こそは、とかねて考えておいた、特別な方法に取りかかった。)</p> <ul style="list-style-type: none"> いつもがんのえさをあさる辺り一面にくいを打ちこんで、たこしを付けたうなぎばりを、たみ糸で結び付けておく。 	<p>今年も</p> <p>かねて</p> <p>一晩中かかって</p> <p>翌日の最近く</p> <p>その翌日</p>	<p>◇今更は、何ぞかうまくいきそうなのがしてならなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一晩中かかって) たくさんのうなぎばりをしかけた。 ●(翌日の最近く) むねをわくわくさせながら、ぬま地に行った。 ●つらやきながら、夢中でかけつけた。 ●思わず、子どものように声をあげて喜んだ。 <p>◇一羽だけであったが、生きているかんがうまく手に入ったので、うれしく思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昨日よりももっとたくさんのつりばりを、ばらまいておいた。 ●はてな、と首をかきあげた。 <p>◇たかか鳥のことで、一晩たてば、また、わすれてやってくるにちがいない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大造じいさんは、思わず、感たんの声をもらした。 ◇(かんとか、かもとかいう鳥は、鳥類の中で、あまりりこうなほうではないといわれているが) どうしてなのか、あの小さい頭の中に、たいした智恵を持っているものだな、ということ、今さらのように感じたのであった。 	<p>「しめたぞ！」</p> <p>「ほま、これは素晴らしい！」</p> <p>「うらむ！」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 仲間がえさをあさっている間も、油断なく気を配って、りょうじゅうのとどく所まで、決して人間を寄せ付けない。 <p>「これも、あの残雪が、仲間を指導してやったにちがいない。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●がんの群れを率いて、ぬま地にやってきた。 ●残雪というのは、一羽のがんにつけられた名前。 ●左右のつばさに、一か所ずつ、真っ白な交じり毛を持っていたので、かりゅうとたちから、そうよばれていた。 ●このぬま地に集まるがんの頭領らしい、なかなかりこうなやつ。 ●大造じいさんは、このぬま地をかり場にしてはいたが、いつころからか、この残雪が来るようになってから、一羽のがんと手に入れることができなくなり、いまますます思っていた。 ●がんの群れは、この危険を感じて、え場を変えたらしく、辺りには、一羽も見えなかった。 ●じいさんがぬま地に姿を現すと、大きな羽音とともに、がんの大勢が飛び立った。 ●つりばりをしかけておいた辺りで、確かにがんがえさをあさった形跡があるのに、今日は、一羽もはりにかかっていない。 ●つりばりの糸が、みな、ひいんと引きのばされていた。がんは、昨日の失敗にこりて、えさを、すぐには飲み込まないで、まず、くちばしの先にくわえて、くうと引く張ってみてから、異状なしとみとめると、初めて飲み込んだものらしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●真っ白 ●秋の日が美しくかがやいていた。
二	<ul style="list-style-type: none"> ●(夏のうちから) 心がけて、たこしを五張ばかり集めておきました。それを、がんの好みそうな場所にはらまいておきました。 	<p>その翌年も</p> <p>夏のうちから</p> <p>その翌日も</p> <p>その翌日も、そのまた翌日も</p> <p>夜の間に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●夏のうちから集めたたこしを、がんの好みそうな場所にはらまいておいた。 ●どんなあんまりとったかかと、その夜行ってみた。 ●同じ場所に、うんとことと、まいておいた。 ●同じようなことをした。 ●会いのえみをもらしました ●え場より少しはなれた所に、小さな小屋を作って、その中にもぐりこんだ。 ●はぐらをぬけ出して、このえ場に行って、がんの群れを待っていた。 ●りょうじゅうをぐっとにぎりしめた大造じいさんは、ほおがひりひりするほど引きしめるのであった。 ●広いぬま地の向こうをじっと見つめたまま、 ●うなった。 	<p>「しめたぞ！もう少しのしんぼうだ。あの群れの中に一羽ぶちこんで、今年こそは目にも見せてくれるぞ。」</p> <p>「うらむ。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大群を率いてやってきた。 ●例によって、ぬま地のうちでも、とりわけ見通しのきく所にえ場を選んで、えさをあさった。 ●(ところが?) 油断なく地上を見下ろしながら、群れを率いてやってきた。ふと、いつものえ場に、昨日までなかった、小さな小屋をみとめた。 ●「様子の変わった所に近づかぬ方がいいぞ。」 ●ぐと急角度に方向を変えると、その広いぬま地の、すつと西側のはしに着陸した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●案の定、そこに集まって、さかんに食べた形跡があった。 ●思わぬごちそうか、四、五日も続いたので、ぬま地のうちでも、そこがいちばん気に入りの場所となったようだった。 ●先頭に来るのが残雪にちがいない。その群れはくなくんやってくる。 ●かれの本筋も、そう感じたらしいのだ。 ●もう少しで、たまのとどくきより入ってくるというところで、またしても、残雪のために、してやられてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●あかつきの光が、小屋の中に、すがすがしく流れ込んできた。 ●ぬま地にやってくるがんのすがすがしさが、かなたの空に、黒く点々と見えた。

	大造いさんの作戦	とき	大造いさんの行動 ● 心情・様子 (〇)	大造いさんの 言ったこと	残雪の行動・様子	地の文 (残雪・かもの様子)	情景描写
三	<p>・(大造いさんは)長年の経験で、がんは、いちばん最初に飛び立ったものの後について飛ぶ、ということを知っていたので、このがんを手に入れたときから、ひとつ、これをおとりに使って、残雪の仲間をどらえてやろうと考えていた。</p>	<p>今年もまた</p> <p>その夜のうちに</p> <p>朝がきた</p>	<p>●生きたとじょうを入れたどんぶりを持って、鳥小屋の方に行った。</p> <p>●がんがどんぶりからえさを食べているのを、じっと見つめながら、●独り言を言った。</p> <p>●いよいよ、残雪の一群が今年もやってきたと聞いて、大造いさんはぬま地へ出かけていった。</p> <p>●青くすんだ空を見上げながら、にっこりとした。</p> <p>●飼いならしたがんを、例のエ場に放ち、昨年立てた小屋の中にもぐりこんで、がんの群れを待つことにした。〇むねがわくわくしてきた。</p> <p>●しばらく目をつぶって、心の落ち着くのを待った。そして、冷え冷えするじゅう身を、きゅっとにぎりしめた。</p> <p>●目を開いた。</p> <p>●くちびるを二、三回、静かにぬらした。あのおとりを飛び立たせるために、口笛をふくと、くちびるをとんからせた。</p> <p>●小屋の外口も、出してみた。</p> <p>●ピュ、ピュ、ピュと、口笛をふいた。</p> <p>●大造いさんは、ぐっとじゅうをかたに当てて、残雪をねらった。が、なんと思っただか、また、じゅうを下ろしてしまった。</p> <p>●かけつけた。</p> <p>〇強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしなかった。</p>	<p>「今年、ひとつ、これを使ってみるか。」</p> <p>「うまいくそ。」</p> <p>「さあ、いよいよ、戦とう戦がた。」</p> <p>「さあ、今日こそ、あの残雪めに、ひとあわかせやせてやるぞ。」</p> <p>「どうしたことだ。」</p> <p>「ばやふさだ。」</p> <p>「あ！」</p>	<p>残雪の目には、人間もはやさもなかった。ただ数羽はならぬ、仲間のすがたがあるだけ。</p> <p>●いきなり、顔こぶさつっていき、あの大きな羽で、かっぱい相手をなぐりつけた。</p> <p>●そのまま、ばやふさとちつれあって、ぬま地に落ちた。</p> <p>●むねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていた。</p> <p>●第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げた。</p> <p>●いさんを正面からにらみつけた。</p> <p>●鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度。</p> <p>●大造いさんが手をのほしても、残雪はもう、じはばたきりかなくなかった。最期のときを感じて、せめて、頭領としてのいげんをきすつけまいと努力しているようでもあった。</p>	<p>・今年もまた、ぼつぼつ、例のぬま地にがんの来る季節になった。</p> <p>・いさんが小屋に入ると、一羽のがんが、羽をばたかせながら、いさんに飛びついてきた。</p> <p>・今では、すっかり、いさんになついていた。ときどき、鳥小屋から運動のために外に出てやるが、ヒュ、ヒュ、ヒュと口笛を吹くと、どこにいても、いさんの所に帰ってきて、そのかた先に止まるほどになっていた。</p> <p>・がんたちは、昨年いさんが小屋がけた所から、たまのどとくまよりの三倍もはなれている地点をエ場にしているようだった。そこは、夏の出水で大きな水たまりができて、がんのえさ十分にあるらかった。</p> <p>・残雪はいつものように群れの先頭になって、美しい朝の空を、真一文字に横切ってやっていた。</p> <p>・エ場を下りると、ガ、ガ、という、やかましい声で鳴き始めた。</p> <p>・(と、そのとき)ものすごい羽音とともに、がんの群れが一度にばたばたと飛び立った。</p> <p>●白い雲の辺りから、何か一直線に落ちてきた。</p> <p>●がんの群れは、残雪に導かれて、奥にすまぬ動作で、はやぶさの目をくらませながら、飛び去っていった。</p> <p>●一羽おくれたのがいさん。大造いさんのおとりのがん。</p> <p>●はやぶさは、その一羽を見逃さなかった。</p> <p>●こんな命かけの場合でも、飼いならしたのよき声を聞きかけたとき、がんは、こちらに方向を変えた。</p> <p>●はやぶさは、その道をさえぎって、はあと、一けりけた。はあと、白い羽毛があかつき空に散った。</p> <p>●がんの体は、なまぬかにむいた。</p> <p>●もう一けり、はやぶさがうけの姿勢をとった。</p> <p>●さつと、大きな力が空を横切った。残雪だった。</p> <p>●不意を打たれて、さすがははやぶさも、空中でさらさらとよめきました。が、はやぶさもさるもの。</p> <p>●さつと大勢を整えると、残雪のむねもとに飛びこんだ。</p> <p>●はつ、はつ</p> <p>●二羽の鳥は、なおも地上ではげしく戦っていました。が、はやぶさは、人間のすがたをみとめると、急に戦いをやめて、よめよめながら、飛び去っていった。</p>	<p>●青くすんだ空</p> <p>●東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。</p> <p>●美しい朝の空</p> <p>●白い雲</p> <p>●白い羽毛</p> <p>●あかつきの空</p> <p>●大きなかけ</p> <p>●羽が、白い花弁のように、すんだ空に飛び散った。</p> <p>●くれない</p>
四		ある晴れた春の朝	<p>●おりのすたをいっぱい閉めてやっ</p> <p>●花の下に立って、こう、大きな声で、がんによびかけた。</p> <p>●残雪が北へ北へと飛び去っていくのを、はなはれとした顔つきで見守っていました。</p> <p>●いつまでもいつまでも、見守っていた。</p>	<p>「おうえい、がんの笑うよ、おまえみだいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやうの方でやっつけたかあないぞ。なあ、おれ、今年の冬も、仲間を連れてぬま地へやってくるよ。そうして、おれたちを、また、堂々と戦おうじゃないか。」</p>	<p>●あの長い首をかたむけて、とつぜんに広がった世界におどろいたようであった。</p> <p>●バシッ！快い羽音一番、一直線に空に飛び上がった。</p>	<p>●残雪は、大造いさんのおりの中で、一冬をこした。</p> <p>●春になると、そのむねのきすも治り、体かも元のようになつた。</p>	<p>●ある晴れた春の朝</p> <p>●バシッ！</p> <p>●快い羽音一番。</p> <p>●らんまんときいたすももの花が、その羽こぶで、雪のように清らかに、はらはらと散った。</p>

※主な手がかりごとの考察（児童が着目して読むと予想される叙述）

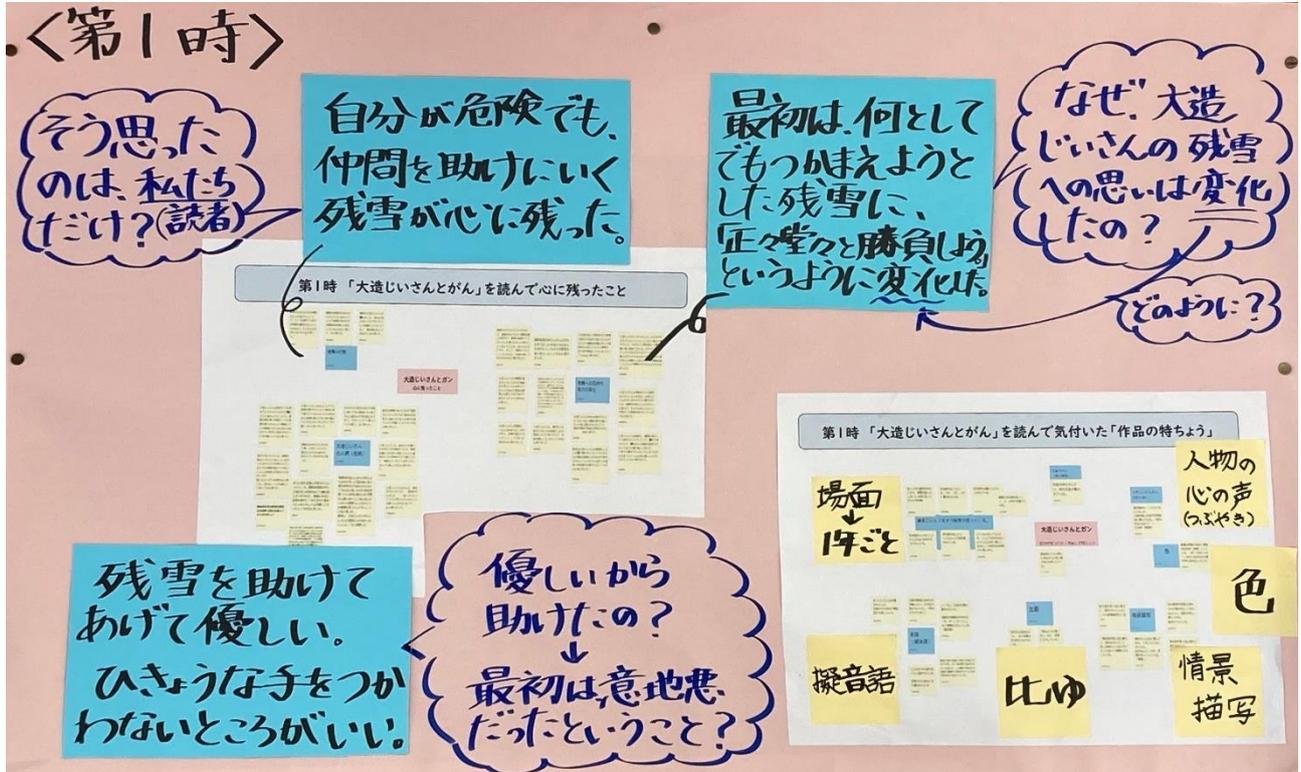
	作 戦	残雪の呼び方（捉え方）	残雪に関する大造じいさんの ☆つぶやき（心内語） ◆表情
第1場面	かねて考えた作戦 一晩中かかってうなぎばりをし かけた。	（たかが鳥） （鳥類の中でも、あまり賢くない）	☆「ううむ。」感嘆の声をもらす。 ☆小さい頭の中に大した智恵をも っている。（感心）
第2場面	夏の <u>うちから</u> たにしを5俵集めた。 何日もたにしをばらまいた。		◆会心のえみ ☆「ううん。」とうなった。
第3場面	2年前に唯一つかまえたがんを おとりにした。	「あの残雪め」	◆にっこり、わくわく ◆（目をつぶり）心の落ち着くの を待つ。 →戦いに向けて気持ちが高揚
第4場面		「がんの英雄」	◆はればれとした顔つき
考 察	残雪がなかなか仕留められな い手ごわい相手だと、大造じい さんも自覚し、作戦にかける時 間が長くなっている。	第2場面までは、たかが鳥だと 残雪のことを捉えていたが、第 2場面で残雪が大造じいさんの 作戦を見抜いたところから、残雪 に対する見方が変わってきた。 （認め始めている） 仲間のがんをはやぶさから命懸 けで守る残雪の姿を見て、大造じ いさんの残雪への見方がすっかり 変化した。（がんの英雄）	第1場面の「感嘆」は、人間の 立場として残雪を見たときに鳥に しては、なかなかやるなと感心し ている。しかし、第2場面の「う なる」は、怒りや苦痛の感情が声 に出るときと、深い感動によって 発する声と両方の意味をもってい る。大造じいさんは、自分の仕掛 けを見抜く残雪に対して感心する とともに、何年も自分の狩場でが んをほとんど捕まえることができ ず苦悩している様子があらわされ ている。 第4場面では、晴れ晴れとした 表情で残雪を見送っている。晴れ 晴れの意味「少しもわだかまりが なくさっぱりとした様子」から、 清々しい気分で、大造じいさんは 残雪を見送っていると、考える。

	大造じいさんの ●行動 会話 ♥心情	対人物（残雪）の様子	情景描写（色彩）
第1場面	♡いまいましい ●夢中でかけつけた。 ♡子どものように声をあげて喜んだ。	• 仲間がえさをあさっている間も、油断なく気を配って、りょうじゅうのとどく所まで、決して人間を寄せ付けない。	• 真っ白なまじり毛（残雪） • 秋の日が美しくかがやいていた。
第2場面	「目にもの見せてやる」 ●何日もかけてたにしをばらまいた。 ●夜の間に、小屋の中のねぐらを抜け出した。	• 油断なく地上を見下ろしながら、群れを率いてやってきた。 • いつものえ場に、昨日までなかった、小さな小屋をみとめた。	• 青くすんだ空 • あかつきの光が、小屋の中に、すがすがしく流れ込んできた。
第3場面	「いよいよ戦とう開始だ」 「ひとあわ吹かせてやる」 ●ぐっとじゅうを肩にあてた。が、また、じゅうを下ろしてしまった。 ♡強く心を打たれた ♡ただの鳥に対してしているような気がしない。	• 残雪の目には、人間もはやぶさもなかった。ただ救わねばならぬ、仲間のすがたがあるだけ。 • むねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていた。 • 残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げた。 • じいさんを正面からにらみつけた。 • 鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度。 • 最期のときを感じて、せめて頭領としてのいげんをきすつけまいと努力しているよう	• 東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。 • 美しい朝の空 • 羽が、白い花卉のように、すんだ空に飛び散った。 • くれない
第4場面	●おりのふたをいっばいに開けてやった。 ●いつまでも見守っていた。	• バシッ！ 快い羽音一番、一直線に空に飛び上がった。	• ある晴れた春の朝 • らんまんときいたすももの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散った。
考 察	第1場面、残雪が来るようになってから、久しぶりにがんを1羽捕まえることができ、大造じいさんがとても喜んでる様子が分かる。 残雪が、大造じいさんの作戦を次々と見破っていくにつれて、大造じいさんの残雪への思いが、たかが鳥ではなく自分が本気で作戦を練って数年かけた仕掛けを使うほど、手ごわい相手であると自覚している様子が行動に現れている。 第4場面で残雪を、単に狩りの対象としてではなく、特別な感情（好敵手：ライバルであり、がんの英雄として讃えている）をもっていることが分かる。	第1場面から、周囲に目を配り、頭領としてがんの仲間を賢く率いている様子が描かれている。 第3場面は、はやぶさとの戦いで傷を負いながらも、がんの頭領としての誇りをもち、大造じいさんと対峙する様子が、曇みかけるように次々と短い言葉で表現されている。この表現が読み手に対して、臨場感をもたせるとともに、残雪の頭領としての威厳ある態度を印象深くする上で、効果的なものになっていると考える。	大造じいさんが、自分が準備した作戦で残雪を捕まえよう（仕留めよう）という気持ちの高ぶりが空の表現に象徴されている。 第3場面では、残雪との戦闘前の高揚感を「東の空が真っ赤に燃えて」と表現している。（第2場面では、「あかつきの空」と控えめな夜明けの表現にとどまっている。） はやぶさとの戦いで散った、残雪の羽を「白い花卉」と表現し、清らかな印象を受けるところからも、大造じいさんの残雪への見方の変容が想像できる。 第4場面の「らんまん」には、光輝くさまという意味があることから、残雪をがんの英雄として捉えている大造じいさんの思いや、残雪の頭領としての尊さを連想させる。

(5) 本時までの主な学習経過と児童の作品

【第1時】

本単元の学習が始まる前に取り組んだ「枕草子」の学習を振り返った後、学習材「大造じいさんとがん」を読んだ。この時間は、主にタブレット（ホワイトボード機能がついたアプリ）を用いて、2点（①印象に残ったこと ②作品の特徴）について交流した。



①印象に残ったこと

大きく2点挙がった。まず、一度しか学習材を読んでいなかったため、仲間を命懸けで助けようとしている残雪を、大造じいさんが銃で撃たなかったことについて、単純に「優しい」と感じた児童が多く見られた。

もう一点は、大造じいさんの残雪に対する思いの変容（関係性）について、心地よい読後感を抱いている児童が多く見られた。

② 作品の特徴

本学習材では、豊かな表現方法を用いて、人物の心情や場面の様子が効果的に描かれていることを、学級全体で共有した。（上記の写真参照）

【第2時】

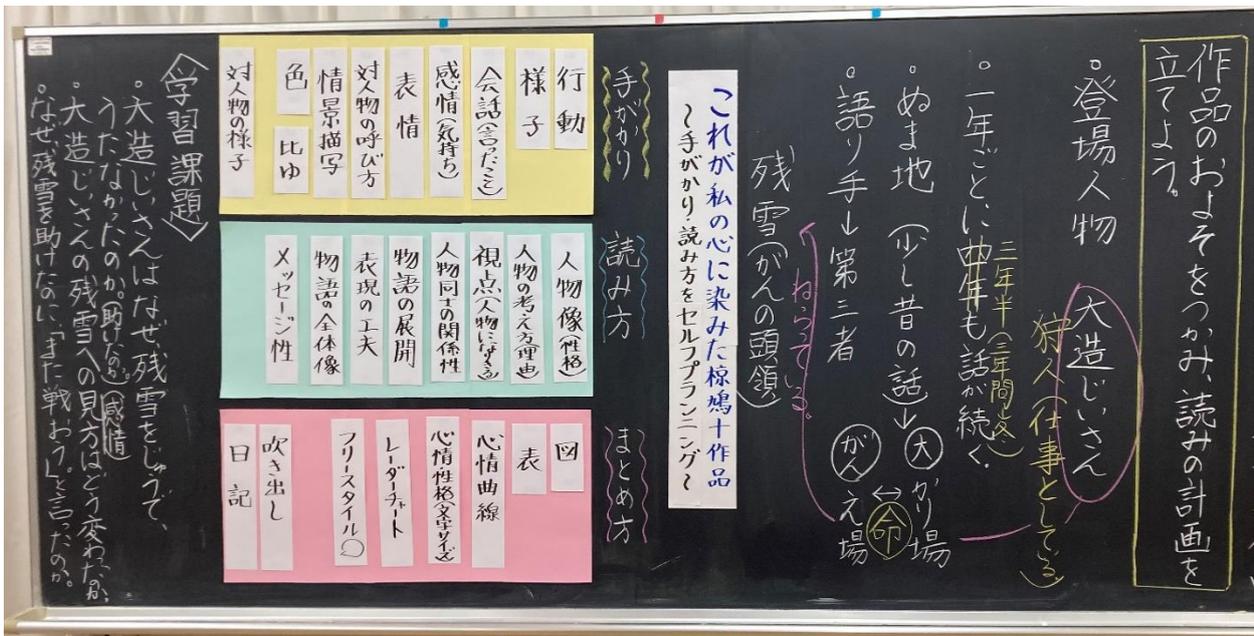
第1時から数日間自分で学習材を家庭学習などで読む時間を確保した後に取り組んだ。

まず、児童一人一人が作品のおよそを捉えてノートに書き、その後全体で交流した。大造じいさんは狩人であり、作品の主な舞台となった沼地は大切な「狩場」であることを確認した。また、残雪をはじめとする「がん」にとっても、沼地が大切な「え場（えさ場）」であることを共通理解した。沼地は、大造じいさんにとっても、残雪たちにとっても、自分たちの「命」にとって重要な場所であることを捉えた。

学習材のおよそを捉えた後、自分が第1時で何となく「印象（心）に残ったこと」を、言葉で分かりやすく表現できるようにするために、疑問に思ったこと（みんながどのように読んで感じ取ったのか、話したいこと）について、詳しく読み深めるために、学習課題を一人一人考えた。その後、今までに学習した文学的文章の学習「手がかり・読み方・まとめ方」を思い出し、自分で学習材を読むための計画を立てた。（セルフプランニング）

学習課題は大きく以下の3点に分類された。

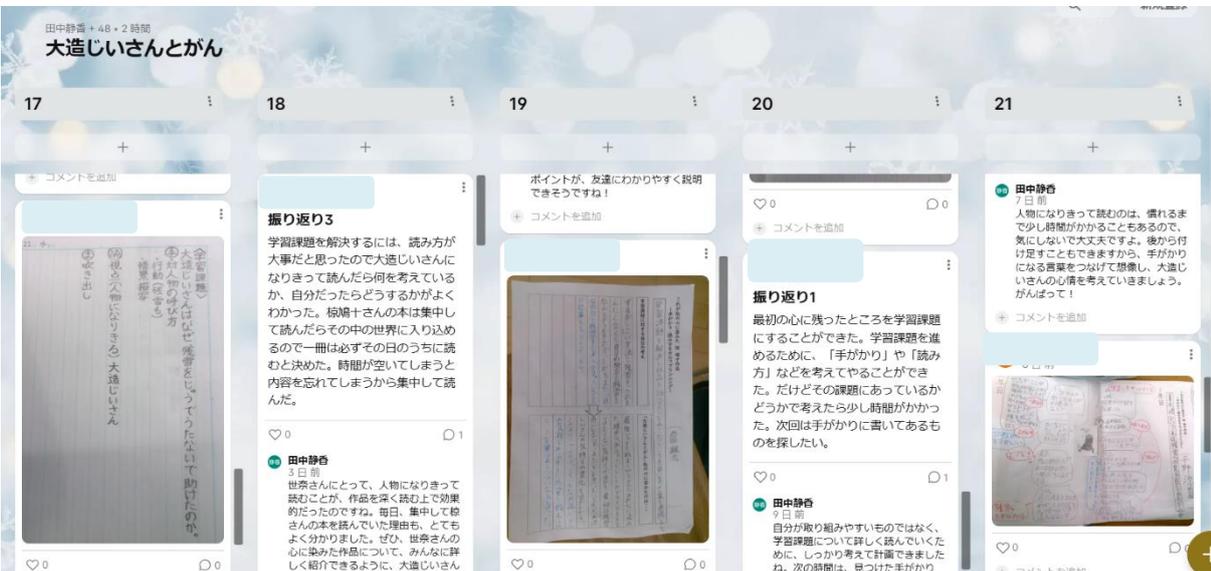
- ① 大造じいさんの残雪への見方（心情）は、どのように変化していったのか。
- ② 大造じいさんは、なぜ、残雪をしとめることができたのに、銃で撃たなかったのか。
- ③ 大造じいさんは、なぜ、残雪の傷を治したのに、「また戦おう」と言って、逃がしたのか。



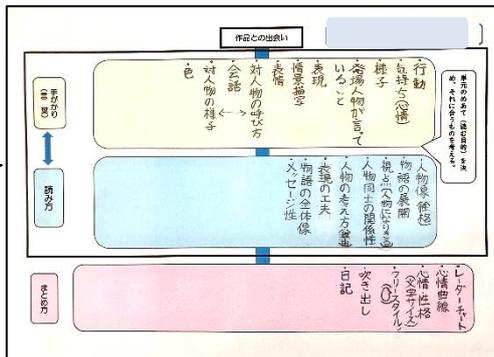
自分で読みの計画を立てる際、ほとんどの児童は、自分が決めた学習課題に対してどのような「読み方」を選べばよいのかを、最初に考えていた。(ノート)ただ、学習課題とリンクさせて「読み方」を考えることに戸惑っている児童も見られたため、既習の文学的文章ではどのような読み方を取り入れてきたのかを、授業者が個別に声を掛けて一緒に振り返り、「読み方」を決められるようにした。

この時間から、学習の成果物と学習の振り返りを掲示板アプリに投稿し、互いの学習の様子を必要に応じて参考にしながら学習を進めるように、学習環境を整えた。

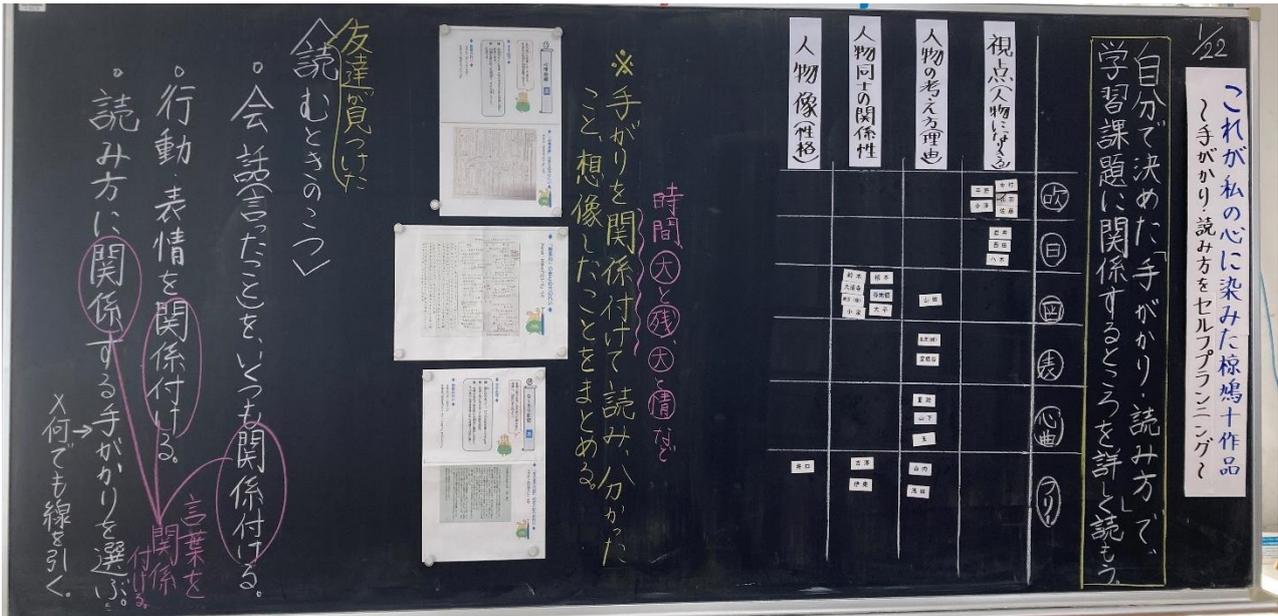
(掲示板アプリ)



(読みの計画を立てる際に使用した資料)
※本単元とは別の時間に整理したもの



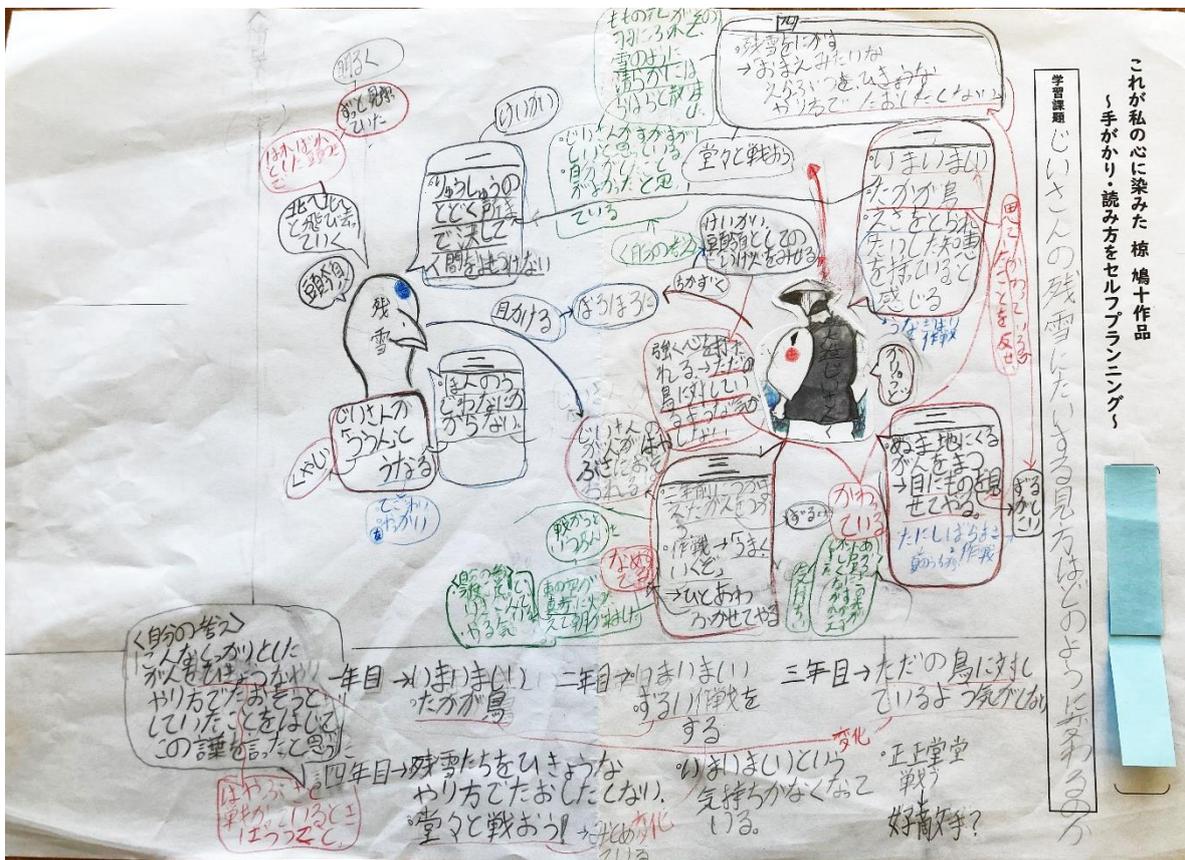
【第3・4時】



自分が決めた「手がかり・読み方」で、自分の学習課題について考えがもてるようにするために、学習材を読み進めた。第3時の最初は、児童によっては、自分が選んだ「まとめ方」をどのように進めていけばよいのか忘れてしまっている様子が見られたため、友達の作品を提示したり、参考資料を提示したりしながら、授業者と一緒に確認をする時間をとった。(個別対応) また、第3時の中盤に学習進度の速い児童の成果物を拡大提示装置で学級全体に共有したり、自由に相談できる時間(相談タイム)をとったりして、見通しをもって学習に取り組めるようにした。

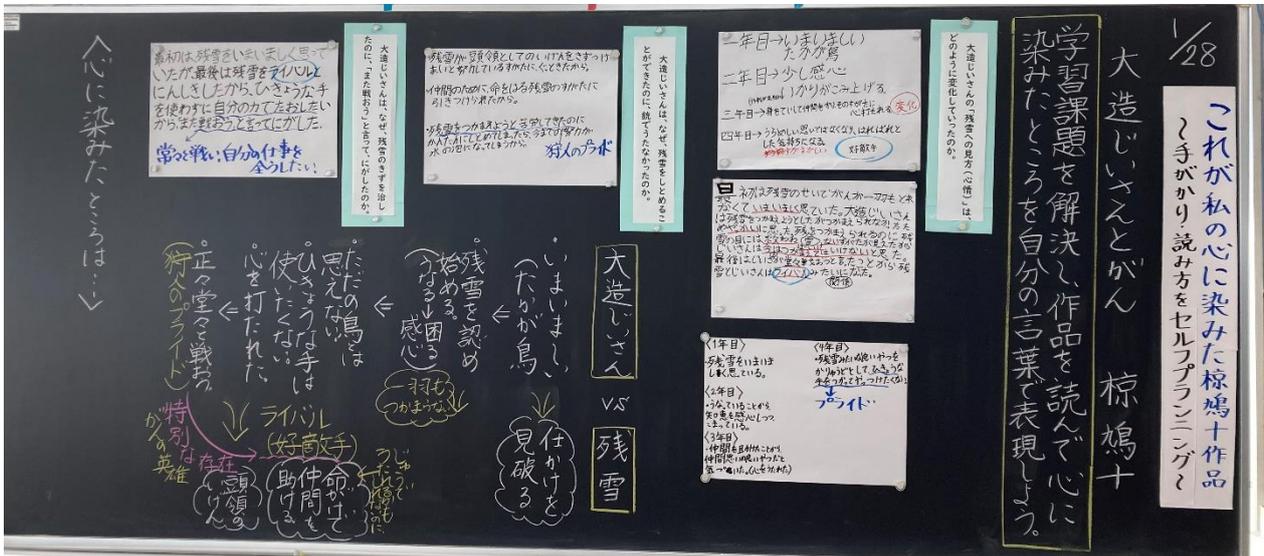
また、第4時の最初に学級全体で1・2場面の読みを確認する時間を短時間設定し、大造じいさんの残雪に対する心情を捉えるとともに、どのような手がかり(となる叙述)を基に友達は場面の様子や人物の心情について想像を広げたのかについて共有した。

(児童の成果物の例)

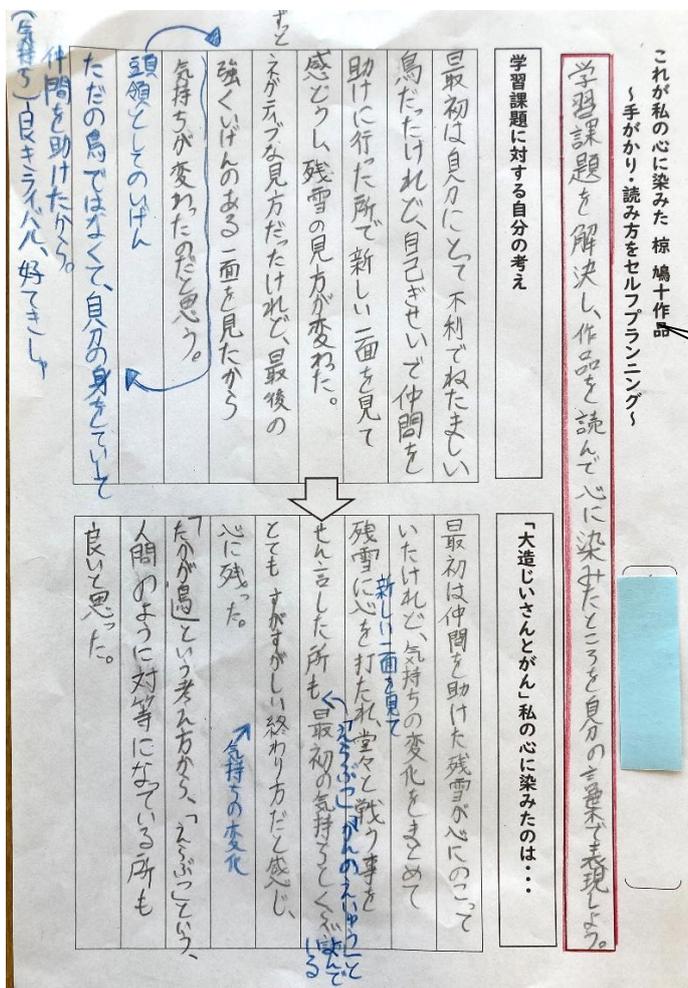


【第5時】

学習課題に対する自分の考えをプリントに書き、同じ学習課題の児童とグループになって交流した。その後、全体で考えを共有し、それぞれの学習課題に対する考えについて、共通していることを話し合った。残雪のがんの頭領らしい振る舞いや命懸けで仲間を守る姿を見て、徐々に大造じいさんの残雪の見方（関係性）に変化が生じて、最終的には残雪のことを「たかが鳥」としてではなく、最高のライバル（好敵手）として認めるようになったことを、どのグループも捉えられていることを確認した。



そして、最後に第1時の際の「印象に残ったこと」と比較して、自分が作品をじっくりと読んでみて、改めて心に染みた（心に深く感じ入った）ところについて、自分の考えをまとめてフリースタイルで個々に友達と交流を図った。



〈第5時で使用したプリント〉
交流を通して、気付いたことや参考にしたいと思った友達の考えは、青字で加筆している。

～第6時（本時）に向けて～

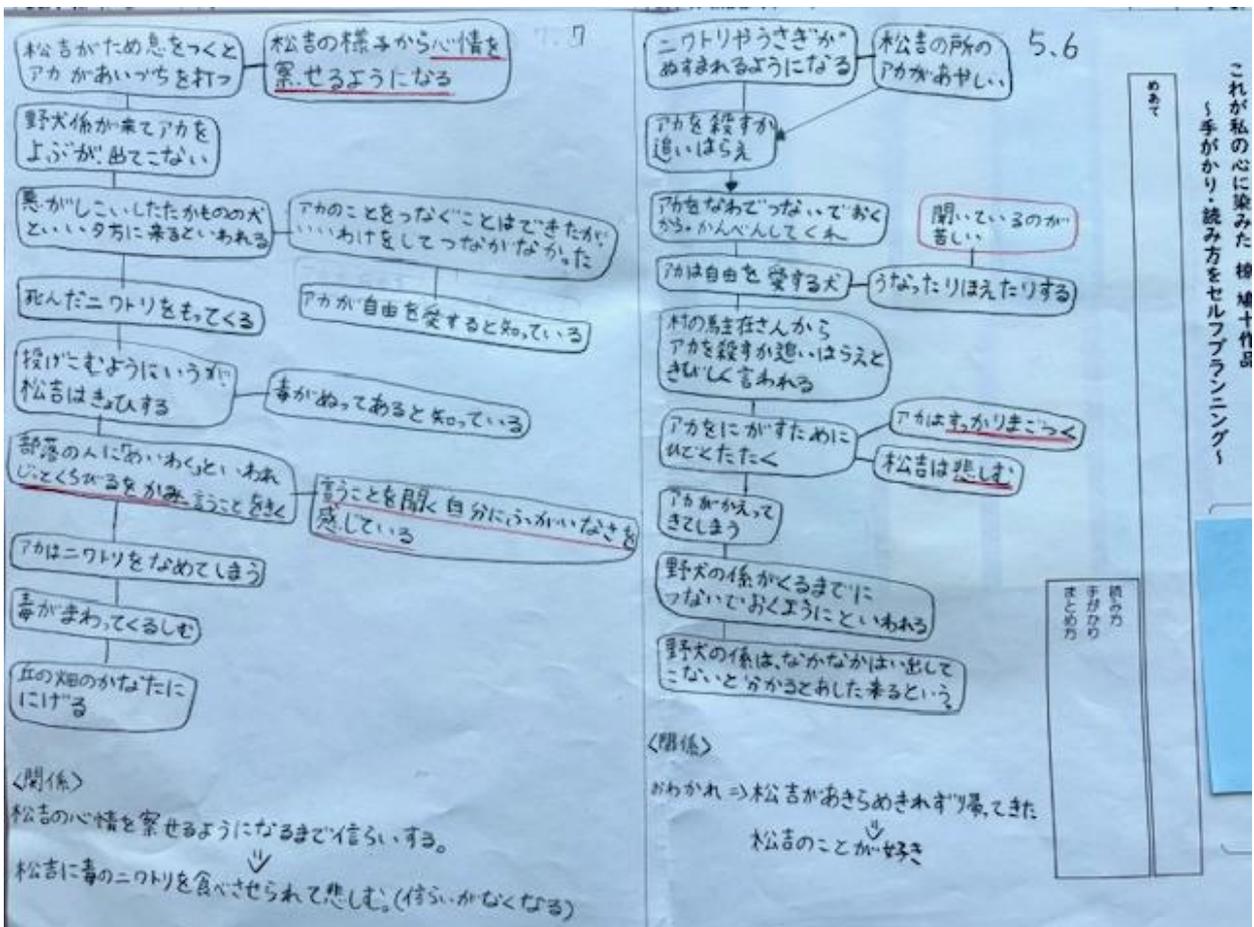
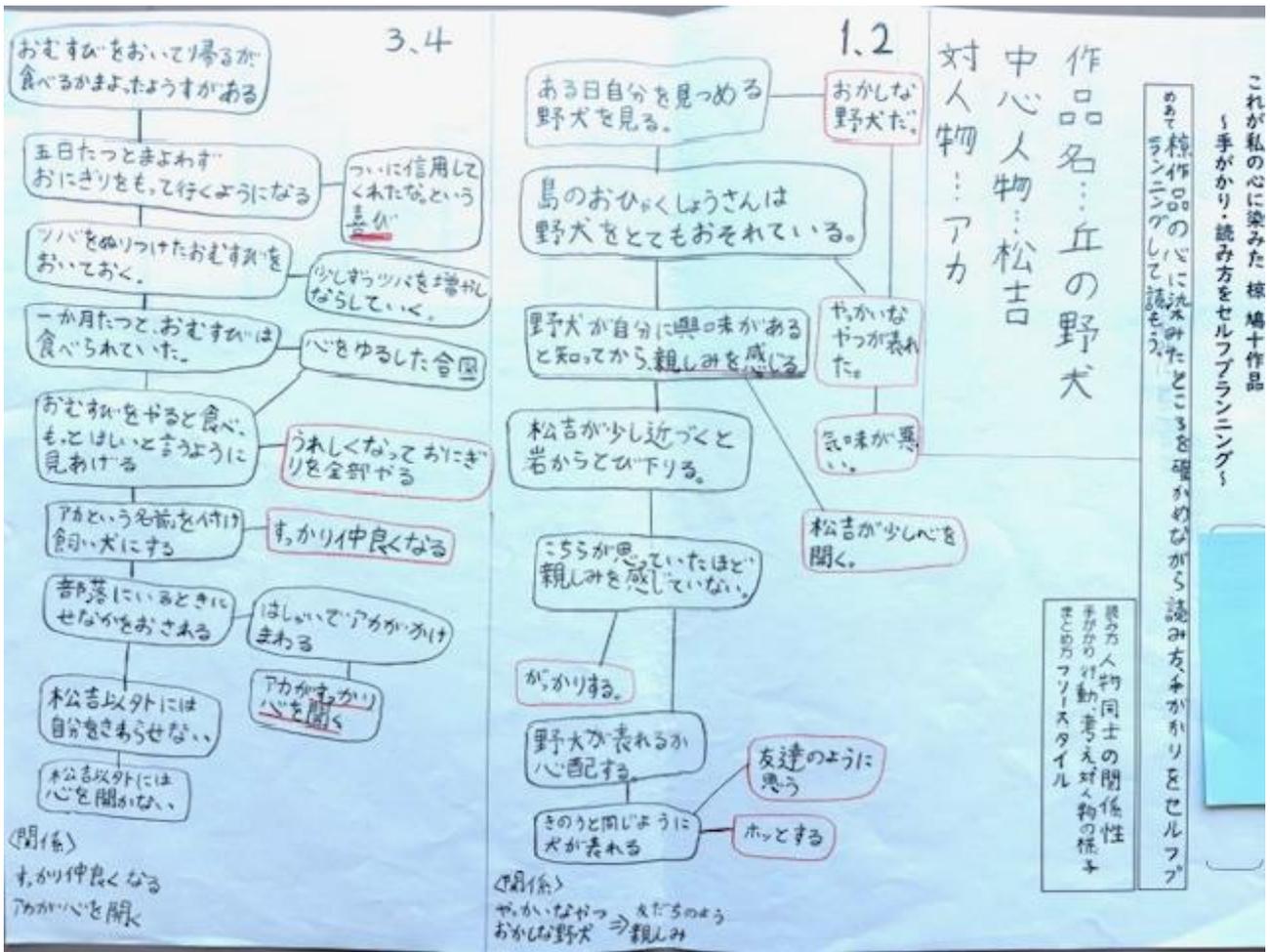
本単元の学習が始まってから、授業者が選書した椋嶋十作品を教室に用意しておき、自由に読むことができるようにした。また、第5時（第二次）と第6時（本時：第三次）まで、1週間ほど時間をとり、児童が朝読書や隙間時間、図書の日を活用して読書ができるようにした。

また、読んだ作品については、タブレットに一言感想を書きとめる学級全体で共有可能なシートを作成し、内容を忘れないようにメモに残すようにした。そして、第6時（本時）の学習で使用する作品を児童自ら選択する際にも、この一言感想や☆の数を手がかりにして決定できるようにした。（作品を決定した児童からタイトルのセルを黄色に変更）

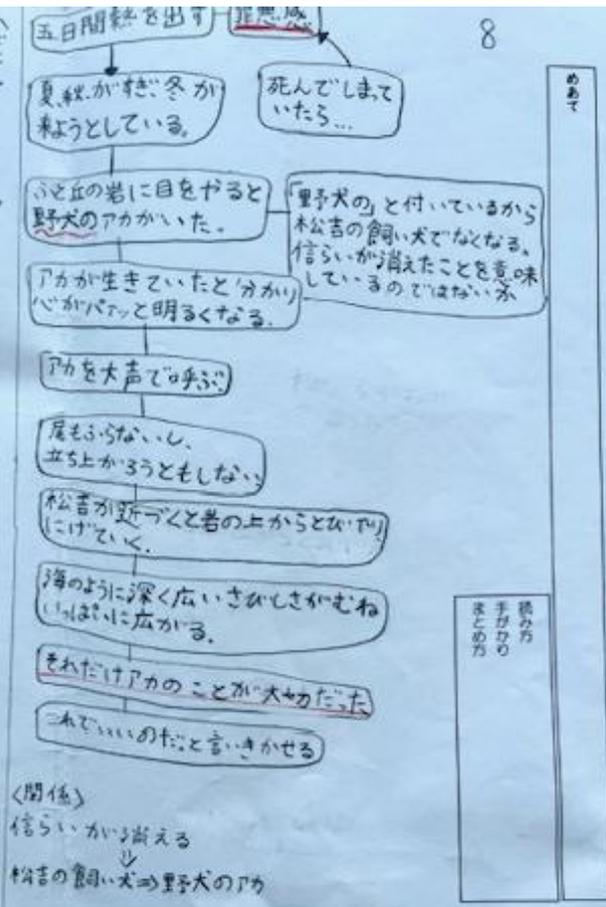
作品名	心に染みた度 (☆1～4)	一言メモ（感想、作品の特ちょうなど）
月の輪グマ	☆	
金色の足あと	☆☆☆	心にしみたところは、崖から落ちて気絶した男の子を狐が助けてくれたこと。懐いていないように見える狐が助けたということは少し懐いているようにうかがえる。男の子もすぐに子狐を逃がすわけではなく、親狐の努力を無駄にしないようにしたところが優しいと思った。
熊野犬	☆	
丘の野犬	☆☆☆☆	とにかく悲しくて心にしみる。心の準備ができてから読んだほうがいい。大造じいさんとがんと違い、人間の会話が出てくる。また最初は大造じいさんと同じで野生のままだと思っただけで、野犬は飼われるようになるんだなと思いました。松吉が可愛そうだった。
片耳の大シカ	☆	
山のえらぶつ	☆	

一人あたりが読んだ作品の数は、2.8冊。（斜め読みだけした作品は含んでいない。）また、児童の実態に応じて、本人が好む作品の傾向を聞きながら、授業者がすすめた作品を1点だけをまずは読むように伝えた。

作品名	心に染みた度 (☆1～4)	一言メモ（感想、作品の特ちょうなど）
月の輪グマ	☆☆☆	とらえようとしていて、こぐまが怯える中、母ぐまがずっとこぐまを助けようとしていて、本当にこぐまが危険にさらされたときとても深い崖なのに飛び越えたことがとても心にしみた。そして、一回動かなくなったけど、また動いたことも感動した。背景描写があった。擬音語もあった。
金色の足あと	☆☆	親ぎつねが、子ぎつねのためにとっても努力していたり、正太郎が親ぎつねたちにやさをあたえ、見守り続けていたのが感動した。でも、最後子ぎつねを取り戻すために牧場までずっと走って向かったけど、雪で落ちて親ぎつねたちが恩を返すために温めてくれたのも感動した。そして最後に子ぎつねが親ぎつねたちにあえて良かった。このお話では、擬音語などがたくさん使われていた。
熊野犬	☆☆☆☆	犬を殺すことが決まり、マヤをずっとかばい続けて、子どもたちが「非国民」とみんなから言われてとても可哀想だった。そしてマヤが連れて行かれ、怪我をしても、「今まで良くしてくれた飼い主のもとで死にたいと思い」最後の力を振りしぼってようやくのおもいで、帰ってきたのがとても心にしみた。マヤのセリフなどはなかったけど、行動から気持ちが伝わってくるのが特徴的。
丘の野犬	☆☆☆	アカが、二ワトリの犯人にされたのが可哀想だった。アカが、二ワトリをなめて、毒を食らってしまい、ドタドタと逃げて行ってしまったが、最後にアカが、戻ってきて、でも近づいてこなくて、どっかに行ってしまったことが心にしみた。アカのセリフなどはなかったのに、文章から気持ちが伝わってきた。
片耳の大シカ	☆☆	なにに、が、みたいな感じで書かれていた。どうして最後鹿たちは襲わずに去っていったのか気になった。死にそうな中を三人で乗り越えていて感動した。そして鹿たちのところについて鹿に飛び込んで何も鹿がしなかったことも感動した。
山のえらぶつ	☆	最後、がけくずれを撃ち抜いて、がけくずれが、崖に落ちたが、その後妻のために戦っていたと知り、妻と一緒に掛けに飛び込んでいったところが心にしみた。最後昔の言葉がいくつか使われていた。擬音語や、比喻もいくつか使われたり、表情もあった。



これが私の心に染みた棟 楠十作品
手がかかり・読み方をセルフプランニング



<関係>
信らいがい消える
↓
松吉の飼いだ⇒野犬のアカ

心に沈みかけたところ
私が心に染めたところは、松吉とアカの関係です。最初はせいかいなやると呼んでいて、陰謀な関係だけれど、話が進んでいくと、どんどん仲良くなつて、アカという名前を付けてあげたの、松吉とアカがおたがいに大切に思っていることが分かるから、目取後にアカが松吉の元をはなれるのがすごく悲しくて、心に沈みかけました。

松の片
手がかかり
まどめ